

2023年3月定例会の特徴、反省点ならびに議会改革課題について

2023年4月6日（木）

提出委員：会派・友和（奴間健司）

1 定例会の特徴

- ①施政方針演説が行われた。（3ページに特徴文責）
- ②第12号議案、令和5年度古賀市一般会計予算（前年度比2.1%増の254億212万4千円・過去最大規模）は賛成多数で可決された。過去最大規模となった要因は、社会保障経費の増加であり、2022年度から増加した主な要因は、古賀東中学校大規模改造工事費や、ふるさと応援寄附基金積立金、公共下水道事業負担金、自立支援給付費の増とのことであった。これは大綱質疑で確認した。新規で特徴的な事業として、就学前までの子ども医療費の無償化、妊産婦等タクシーチケット補助、小中学校の水泳授業民間委託、古賀東小トイレ洋式化等改修などがあげられる。3月補正で古賀西小、花鶴小でもトイレの洋式化改修が行われる。
- ③一般会計補正予算（第6号・6億4762万9千円の増額）は賛成全員で可決された。基金積立金（8億113万2千円増額）、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金減額（△5000万円）、燃料費高騰対策運送事業者等支援金（△1億1246万7千円）、古賀西小、花鶴小トイレ改修工事（2億977万円増額）、住民税均等割のみ課税世帯に5万円給付（6040万6千円）が盛り込まれた。
- ④野村哲也氏を副市長にする議案が可決された。

2 定例会の反省点、課題について

（1）本会議

①初日（2月22日）

ア）施政方針演説（45分）・・・大半が事業概要の説明となっていた。事業の区分は総合計画の基本目標や所信表明のテーマでもない方法となっていた。時代認識や市政運営の基本がなかった。予算編成については一般論しか述べていないので、これをもって予算案の提案理由の説明とすることはできないと判断する。

イ）第12号議案（一般会計予算）について提案理由の説明を省略する方法は改めるべきである。

ウ）第18号議案（一般会計補正予算）について提案理由の説明を口頭で行ったが、総括的な説明文書を提出すべきである。これについては取手市の実例を示し繰り返し指摘している。

エ）第25号議案（議会の個人情報保護）を議運委員長として提案理由の説明を行った。

②二日目（2月28日）

ア）施政方針に対する各会派代表等（7人）による質疑が行われた。

その中で、自由クラブの代表が「もっとしっかりせんか」と大きな声で発言したことはその意図とは別に課題を残したと考える。

③一般質問（3月15日、16日、9人）

- ア) 申し合わせに基づき割振りされた。これはよかった。
イ) 常任委員会での所管事務調査や予算審査で質疑すべきテーマもあったように感じた。
ウ) 気がかりな点

- ・「在宅医療は9箇所」の内容の確認は必要。在宅療養診療所は1箇所。
- ・ラスパイレス指数が県内58市中56位という実態。
- ・緑の基本計画の必要性。高木を次々と根元から伐採する市の方針は極めて問題
古賀団地の実例。2月1日に担当課から区長に、予算が余っているから高木を伐採しないかと投げかけ。3月17日、18日に高木を2公園で26本も根元から伐採していた。
私の一般質問の翌日のことだ。

環境課と都市整備課の協議がないことは問題。

④最終日（3月23日）

- ア) 第26号議案は賛成5、反対11で否決された。
イ) 一般会計予算は反対討論1人、賛成討論3人が行った。
ウ) 議運提案の第25号議案は賛成全員で可決された。

⑤常任委員会（3月2日市民建産、3日文教、6日総務）

<文教厚生>

- ア) 朝食習慣化産官学連携プロジェクトについて質疑した。経過がバタバタしており決定も2月末とのこと。執行部内部での議論不足を感じる。
イ) 部活の地域移行（制度設計、人材、財政負担の課題）国の方針であっても地域での具体化は困難性がある。慎重に検討すべき。
ウ) 北中の地域開放室。鍵についてはキーボックスを設置し、スポーツ協会の窓口に行く必要がなくなったとのこと。委員会での指摘が活かされたと言える。
エ) **会期中の所管事務調査の結果報告を最終日本会議で行う**よう改善すべき。

⑥補正予算特別委（3月7日）

- ア) 燃料費高騰対策運送事業者等支援金の執行率36.8%の教訓、トイレ改修補正予算計上により3000万円有利となること、文書による補正予算説明など課題を解明した。
イ) 3月補正でしっかり質疑しないと9月決算審査では手遅れとなる課題もある。

補正予算審査に各議員、各会派が関心を持ち、議会の強みである多様な視点、切り口を生かした審査とすることが今後の目標と言える。

⑦予算審査特別委員会（3月8日、9日、13日、14日、20日）

- ア) 可児市議会の視察成果を踏まえ、**来期の9月決算審査から具体的改善を加える**ことが次の目標であることを記録しておきたい。**決算審査を起点とする2024年度予算審査**が展望できるよう来期を担うすべての方々に呼びかけたい。

その具体的改善点は以下の点である。

- ・ 予算案に重点事業の説明
- ・ 質疑の通告制の導入
- ・ 通告に基づく執行部の対応
- ・ 分科会ごとに提言をめぐる議員間討議、取りまとめ
- ・ 全体会での各分科会からの報告と取りまとめ
- ・ 提言書の提出と執行部の対応（予算時の重点事業報告書、決算時の点検結果報告書）

イ) 予算審査の視点

- ・新規や増額事業、第5次総合計画との整合性、未来への責任。この3点に絞って審査。
- ・ただ単に質疑するのではなくその年度の特徴を踏まえ問題意識を持って質疑することを投げかけておく。

ウ) 気がかりな事業

- ・清掃工場（工場再編推進室の設置、1組合1工場、域内処理）
玄界環境組合議員はこうした重要課題については全議員に詳しく報告する責務がある。
- ・ふれあい収集（25件×3150円×8ヶ月）
対象要件の厳しさ、現状の未把握、コミュニティとの相談なし等々課題がある。
- ・路線バス補助（2年後には8600万円程度になる見込み、西鉄との合意）
2022年10月12日の合意の経過と内容は極めて大きな課題。
市長質疑で課題を浮き彫りにした。市長、副市長、担当課だけの独断専行
議会の2回にわたる提言を具体化してこなかった結果が大きな負担を招いたと言える。
- ・水泳授業の民間委託（子どもにとっての効果、教師の負担軽減、財政負担の削減）
移動の負担、民間のリスク、評価の課題など慎重に検証すべき
- ・薬王寺快生館（市費負担が1770万円となることが判明）
入湯税は予算では150円×66人という見込み。

エ) 議会費の中の11事業（議会審議・調査事務費）と12事業（議会広報・広聴事業費）を復活したことを評価した。前年度に指摘した。

3 議会改革の取組みについて

- ①委員会会議録を議会ホームページにアップすること
- ②常任委員会のインターネット中継・録画配信を行うこと
- ③議案や資料の公表
- ④常任委員会の閉会中の所管事務調査において、自由討議を行い、委員会の意志として指摘・提言を行うこと
- ⑤予算・決算の審査方法を改善すること
- ⑥傍聴者に渡した資料を回収しないこと

